

# 実習スーパービジョン論演習

2023年度社会福祉士実習指導者講習会

(5時間)

主催：公益社団法人 新潟県社会福祉士会

協力：一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟

# 演習のスケジュール

内容	時間のめやす
演習の説明・アイスブレイク	11:30~11:50
昼食休憩	11:50~12:50
演習1 実習生に適切に関わる:エンゲージメント	12:50~14:05
休憩	14:05~14:15
演習2 実習生の学びを支える:アセスメント	14:15~15:30
休憩	15:30~15:40
演習3 実習生の倫理的ジレンマに対応する:プランニング・介入	15:40~16:55
休憩	16:55~17:00
まとめ	17:00~17:45

# 演習(実習指導者)のポイント(10分)

1. この演習は、現場実習中に実習指導者が行うSVについて焦点を当てています。
2. この演習のねらいは、①実習生に適切に関わること、②実習生の学びを支えること、③SVの展開を意識して、プランニングと介入を理解することです。
3. ここでは、実習SVのプロセスに基づいて、3つの演習を行います。  
「実習生に適切に関わること(エンゲージメント)」(演習1)→「実習生の学びを支えること(アセスメント)」(演習2)→「実習生の倫理的ジレンマに対応する(プランニング・介入)」(演習3)という流れで進みます。
4. 多様な方々の多様な考えを共有をできるように、お互いに学び合いましょう。  
\*ブレインストーミング式:批判厳禁、自由奔放、便乗発展、量を好む

# 演習 アイスブレイク(10分)

- ①自己紹介+「実習指導者として学びたいこと・不安なこと」(8分)
- ②このあと演習を3つ行います。それぞれの進行係と発表係を決めてください。(2分)

# 演習1 実習生に適切に関わる(エンゲージメント) (約80分)

## <演習の説明>(10分)

実習生:Aさん

実習先:ロールプレイで実習生役  
をする人の職場

1か所目の実習

(場面:事前訪問の受け入れ)

Aさんは、大学2年生です。社会福祉士の1か所目実習を春休みに行うため、実習開始の1か月前に事前訪問のために来所しました。

初めての实習ということで、やや緊張している様子がうかがえます。簡単に挨拶を交わした後、面接室にて個別面談を実施しました。

①個人ワーク(5分)

● 演習のポイント

➤ 実習生はなぜ緊張しているのか?実習生の気持ちを想像してください。

➤ スーパーバイザーとしてどのような関りから始めますか?

==このあと、ブレイクアウトルームに移動=====

<グループ>

②役の順番と設定の確認を行う(進行表を参照してください。5分以内)

3人グループで、次の役を交代しながら、全員が1回ずつすべての役を担います。

A 実習生

B 実習指導者

C 観察者(タイムキーパー)

③ロールプレイ(15分)

1回5分×3回

==一旦、全体ミーティングに戻り、説明後に再度ブレイクアウトルームへ==

④グループで振り返り(約15分)

この時間に発表の準備をしてください。

<全体>

⑤全体共有と解説(約20分)

# 演習2 実習生の学びを支える(アセスメント) (約80分)

## <演習の説明>(10分)

実習生: Bさん

実習先: ロールプレイで実習生役をする人の職場

(場面: 実習中期)

Bさんは、実習中期に入り、特定のクライアントに対するアセスメントの実施と支援計画の作成を課題として取り組んでいる。

夕方、一日の振り返りの時間に、実習生に対して進捗状況についてたずねたところ、次のような発言があった。

「Cさんの支援計画の作成をしなくてはならないのですが、とても困っています」

\*すでにエンゲージメントができているという前提なので、直接アセスメントの仕方から検討する。

## ①個人ワーク(5分)

### ● 演習のポイント

- 実習生がなぜ「とても困った」と言っているのか想像してください。
- スーパーバイザーとして何をしますか？
- 具体的にどのように対応しますか？

==このあと、ブレイクアウトルームに移動=====

<グループ>

## ②役の順番と設定の確認を行う(進行表を参照してください。2分以内)

3人グループで、次の役を交代しながら、全員が1回ずつすべての役を担います。

- A 実習生
- B 実習指導者
- C 観察者(タイムキーパー)

## ③ロールプレイ(15分)

1回5分×3回

==一旦、全体ミーティングに戻り、説明後に再度ブレイクアウトルームへ==

## ④グループで振り返り(約15分)

この時間に発表の準備をしてください。

<全体>

## ⑤全体共有と解説(約20分)

# 演習3 実習生の倫理的ジレンマに対応する (プランニング・介入) (約80分)

<演習の説明>(10分)

実習生(実習生):Cさん

実習先:児童養護施設

(インシデント:実習終了4日前 振り返り時間)

実習終了日まであと4日となった日の振り返りの時間が終わりかけていた。そのときに実習生が小さな声で途切れ途切れに話し始めた。

「どう相談するか迷う」とやっと切り出し、「実は小学5年生のDさんは園から渡されているお小遣いで中学生の入所児Eさんに頼まれたものを買って、渡している。『プレゼントなの。秘密だけどCさんには教えてあげる。』と言われた。秘密と言われて、引っかかっている。」ということであった。「Dさんは自分に段々と話をしてくれるようになって嬉しく思っているのに、気持ちを裏切ることになる恐れがある、中高生の入所児はなかなか話ができず関わるのが難しく、怖いと思っている」と語られた。

なお、本園では子ども間での物のやり取りを園で制限しているとオリエンテーションで説明を受けている。

## ①個人ワーク(15分)

- このような場合、実習指導者として実習生に具体的にどう対応するか？ ワークシート(SVの実施計画シート)に記載された①～③を実習指導として行うにあたり、具体的にどう対応するか考えてください。
- その対応は、SVのどの機能(管理的機能、教育的機能、支持的機能)を活用するのも検討してください。

## ①グループワーク(25分)

- まずは、個人ワークで考えた内容を発表・共有しあってください。
- 次に、演習ワークシート「SVの実施計画シート」の①～③をグループとしてまとめてください。

## ②全体共有と解説(25分)

# SVの実施計画シート

グループメンバー氏名:

<p>①実習生の倫理的ジレンマの状況確認、実習生の自己覚知を促す</p>	<p>具体的にどう対応するか(SVの機能も検討する)</p>
<p>②実習生がクライアントの理解や適切な援助の対応、クライアントの最善の利益を検討できるよう促す</p>	<p>具体的にどう対応するか(SVの機能も検討する)</p>
<p>③実習生が継続して学ぶことができることの保障、クライアントへの適切な援助にむけた対応、実習指導者の働きかけ</p>	<p>具体的にどう対応するか(SVの機能も検討する)</p>